

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Antiatherogenic potential of red wine: clinician update. 赤ワインの動脈硬化抑制効果の可能性—臨床医のための最新情報	
執筆者	
Szmitko PE, Verma S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Physiol Heart Circ Physiol. 2005 May;288(5):H2023-30. Epub 2005 Jan 14.	
キーワード	
アルコール消費、フレンチパラドックス、ポリフェノール	
要 旨	
<p>先進工業国では動脈硬化性疾患が死因・罹患の主要な位置を占めている。多くの疫学研究で中等度の飲酒が心血管疾患により影響をもたらすことが示されている。この総説では、赤ワインが動脈硬化を減少させることを示す疫学的研究や基礎実験による根拠を示す。赤ワインを含みアルコールの適正飲酒で心血管疾患や、脳血管疾患、末梢血管疾患の危険度の減少が示されている。アルコールの脂質に対する影響や、凝固線溶系に対する影響や、インスリン抵抗性の減弱以外の効果として、赤ワインに含まれるポリフェノールが動脈硬化プラークの発生・進展・破裂の分子的過程に関わっている可能性がある。しかしながら赤ワインが他のアルコール飲料よりも有益であるかどうかについては明らかになっていない。臨床医が赤ワインを動脈硬化の予防や治療の目的で患者に飲用を勧められるようになるためには、大規模な無作為割付によって発症頻度を明らかにするための調査が必要であろう。</p>	